

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 宮川 耕二 (課長補佐兼県道係長 吉村 文章)	内線	4362 (4374)
事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	約3.9億円
		道路改築事業 主要地方道 氷上加美線	氷上郡氷上町三原～ 多可郡加美町丹治	内用地補償費	約1.5億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
氷上郡氷上町三原～多可郡加美町丹治			平成17年度	平成17年度	平成23年度
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 氷上町と加美町境の通行不能区間を解消し、合併後の新市町間を連絡する道路として、北播磨・丹波両地域間の交流・連携を促進する。 ・ 北播磨に唯一残る高速道路ICへの30分到達圏空白地(加美町)を解消し、京阪神圏からのアクセス性を向上させる。 ・ 第三次医療機関や広域防災拠点へのアクセス向上により生活の安全度強化を図る。 ・ 都市と農山村の交流による地域振興を目的とした「北はりまハイランド構想」を支援する。 ・ 加美町が進めている大河丘陵活用計画のアクセス道として地域整備を支援する。 			道路改築(バイパス整備) L=4,400m (うち トンネルL=1,800m) 【計画幅員】 明かり部: W=6.0(9.75)m(2車線+片側歩道) W=5.5(7.0)m(2車線) トンネル部: W=5.5(6.5)m(2車線) 【計画交通量】 2,600台/日 【負担割合】 国 5.5/10 県 4.5/10		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通行不能区間の解消により、災害時における緊急避難路及び代替路線としての機能が発揮され、緊急時の輸送能力の低下を避けることができる。 ・ 北播磨地域には第三次救急医療施設がなく、最寄りの第三次的機能を果たす県立柏原病院からは30分圏外にあり、本路線の整備により、加美町から県立柏原病院へのアクセス性が向上し、加美町域の救急・救命体制の強化が図られる。 				
くらしと交流を支える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「北はりまハイランド構想」を支援する骨格道路として、また、阪神圏からのアクセス向上や新たな観光周遊ルートを構築するなど、都市と農村の活発な交流促進による地域づくりに貢献する。 ・ 丹波地域との交流・連携強化が図られ、氷上町の大規模商業施設の商圏拡大をもたらすなど、地域振興に大きく寄与する。 ・ 加美町が進めている大河丘陵活用計画へのメインアクセス道路として、地域整備を支援する。 				
県土の活用を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北播磨地域で唯一高速道路インターチェンジへの到達30分圏空白域である加美町が、当路線の整備により北近畿豊岡自動車道氷上インターチェンジに直結され、到達30分圏内(現状:36分 整備後:24分)に含まれることとなり、京阪神地域からのアクセス性が向上する。 				
地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加美町総合計画で阪神間地域への広域交通アクセス、地域との交流を支える県道氷上加美線の未整備を課題に取り上げ早期整備を強く求めている。 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用便益比 B/C = 2.4 				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通不能区間解消には、現道が集落を通過していること、及び地形的要因、沿道土地利用計画等を総合的に判断すると本ルートが最適である。 				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大河丘陵活用計画を支援する道路として、町道整備と一体的に整備することにより円滑で効率的な事業執行が図られる。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・ トンネル掘削土全てを、両側の明かり部及び大河丘陵活用計画地内の盛土に利用するとともに、現地で発生する木材、石を最大限に活用した道路整備を行う。 ・ 切土・盛土法面に周辺植生に配慮した植栽を行い環境への影響を軽微にする。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成16年11月の丹波市、平成17年3月の新町(多可郡3町)の発足、北近畿豊岡自動車道氷上ICの供用を踏まえ、合併後の市町間のみならず北播磨・丹波地域間の連携強化やICアクセスの向上を図るうえで早期整備が必要である。また、(主)氷上加美線は、加美町で進められている大河丘陵活用計画と一体的に整備することとしており、同活用計画が平成23年度の事業完成・供用を目指していることから、同時完成を図るためには平成17年度の着手が必要である。 				